

特定非営利活動法人ジャパンハート
2026 年度 通常総会
議 事 次 第

1. 日時： 2026 年 5 月 29 日（金） 18:00～20:00
2. 開会・進行 理事長 吉岡 春菜
事務局長 佐藤 抄
3. 理事長挨拶 吉岡 春菜 理事長
4. 議長選出 出席正会員の中から選出（定款第 24 条）
5. 定足数の確認（定款第 25 条）
6. 議事録署名人の選任 2 名（定款第 28 条）
7. 議事 議長
第 1 号議案 2025 年度事業報告の件
第 2 号議案 2025 年度決算報告の件
監査報告
第 3 号議案 2026 年事業計画（案）審議の件
第 4 号議案 2026 年予算（案）審議の件
第 5 号議案 役員改選の件
8. 閉会 議長

I 組織活動状況

1. 通常総会

日時：2025年6月19日(木) 18:00～20:00

場所：オンライン上（zoomを用いて開催）

議事： 理事長 吉岡春菜

事務局長 佐藤 抄

第1号議案 2024年度事業報告の件

第2号議案 2024年度決算報告の件

監査報告

第3号議案 2025年事業計画（案）審議の件

第4号議案 2025年予算（案）審議の件

第5号議案 会費金額変更の件

第6号議案 役員改選の件

上記議案について審議され、異議なく承認された。

2. 理事会

(1) 第1回理事会

日時：2025年（令和7年）4月17日（木）8:30～9:30

場所：オンライン上（zoomを用いて開催）

議事：（議長 吉岡春菜理事長）

第1号議案 2025年度予算について（メール承認依頼）

第2号議案 国内寄付獲得状況について

第3号議案 月次共有（事業、組織）について

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(2) 第2回理事会

日時：2025年（令和7年）5月22日(木) 8:30～9:30

場所：オンライン上（zoomを用いて開催）

議事：（議長 吉岡春菜理事長）

第1号議案 2025年度通常総会資料の承認について（メール承認依頼）

第2号議案 国内寄付獲得状況について

第3号議案 月次共有（事業、組織）について

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(3) 第3回理事会

日時：2025年（令和7年）6月23日（月）8:30～9:30

場所：オンライン上（zoomを用いて開催）

議事：（議長 吉岡春菜理事長）

第1号議案 理事長、副理事長の選任について

第2号議案 国内寄付獲得状況について

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(4) 第4回理事会

日時：2025年（令和7年）7月16日（水）8:30～9:30

場所：オンライン上（zoomを用いて開催）

議事：（議長 吉岡春菜理事長）

第1号議案 国内寄付獲得状況について

第2号議案 月次共有（事業、組織）について

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(5) 第5回理事会

日時：2025年（令和7年）8月21日（木）8:30～9:30

場所：オンライン上（zoomを用いて開催）

議事：（議長 吉岡春菜理事長）

第1号議案 国内寄付獲得状況について

第2号議案 月次共有（事業、組織）について

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(6) 第6回理事会

日時：2025年（令和7年）9月18日（木）8:30～9:30

場所：オンライン上（zoomを用いて開催）

議事：（議長 吉岡春菜理事長）

第1号議案 国内寄付獲得状況について

第2号議案 月次共有（事業、組織）について

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(7) 第7回理事会

日時：2025年（令和7年）10月16日（木）8:30～9:30

場所：オンライン上（zoomを用いて開催）

議事：（議長 吉岡春菜理事長）

第1号議案 国内寄付獲得状況について

第2号議案 月次共有（事業、組織）について

第3号議案 カンボジア新病院の進捗状況について

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(8) 第8回理事会

日時：2025年（令和7年）11月20日（木）8:30～9:30

場所：オンライン上（zoomを用いて開催）

議事：（議長 吉岡春菜理事長）

第1号議案 国内寄付獲得状況について

第2号議案 月次共有（事業、組織）について

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(9) 第9回理事会

日時：2025年（令和7年）12月18日（木）8:30～9:30

場所：オンライン上（zoomを用いて開催）

議事：（議長 吉岡春菜理事長）

第1号議案 国内寄付獲得状況と来年度の寄付獲得施策について

第2号議案 月次共有（事業、組織）について

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(10) 第10回理事会

日時：2026年（令和8年）1月22日（木）8:30～9:30

場所：オンライン上（zoomを用いて開催）

議事：（議長 吉岡春菜理事長）

第1号議案 国内寄付獲得状況について

第2号議案 月次共有（事業、組織）について

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(11) 第11回理事会

日時：2026年（令和8年）2月19日（木）8:30～9:30

場所：オンライン上（zoomを用いて開催）

議事：（議長 吉岡春菜理事長）

第1号議案 2026年度団体予算について

第2号議案 国内寄付獲得状況について

第3号議案 月次共有（事業、組織）について

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(12) 第12回理事会

日時：2026年（令和8年）3月19日（木）8:30～9:30

場所：オンライン上（zoomを用いて開催）

議事：（議長 吉岡春菜理事長）

第1号議案 国内寄付獲得状況について

第2号議案 月次共有（事業、組織）について

上記議案について審議され、異議なく承認された。

3. 会員状況

2026年4月1日現在の会員数

		2025年4月1日現在	2026年4月1日現在
正会員	医療者	280人	253人
	一般	161人	148人
	学生	7人	14人
	法人	49社	46社
正会員合計		546人・社	461人・社
賛助会員	個人・法人	236人・社	197人・社

4. 事務局

2026年4月1日現在の組織体制

事務局長以下の正職員 37名（日本雇用）＋契約職員 8名（日本雇用）＋現地採用職員（現地人含む）＋パートタイム・経理顧問

◇東京事務局（本部）

事務局長 佐藤 抄（事務局長/COO）
事務職員 杉山 智哉（管理本部長 / CAO）
高橋 茉莉子（災害支援・対策セクションリーダー）
飛田 智子（災害支援・対策セクション）
田中 志帆（災害支援・対策セクション）
大内 心晴（災害支援・対策セクション）
伊藤 和子（スマイルスマイルプロジェクトセクションリーダー）
吉岡 春菜（スマイルスマイルプロジェクト）
山田 友恵（スマイルスマイルプロジェクト）
高橋 萌（スマイルスマイルプロジェクト）
川原 沙菜（スマイルスマイルプロジェクト）
印東 真奈美（スマイルスマイルプロジェクト）
金子 奈央（スマイルスマイルプロジェクト）
ラガヴェンドラ雅江（管理セクション 総務・海外総務担当）
吉浦 ゆず香（管理セクション）

皆川 夏子（マーケティンググループリーダー / 営業担当）
横山 菜々子（マーケティンググループ マーケティング担当）
岸 美貴子（マーケティンググループ WEB 担当）
渡辺 彬衣（マーケティンググループ 営業担当）
中山 佳子（マーケティンググループ 営業担当）
佐藤 樹（マーケティンググループ 営業担当 兼 最高顧問秘書
兼 事務局長補佐）
小林 裕二（マーケティンググループ 営業担当）
真鍋 優花（マーケティンググループ 営業担当）
上村 可南子（マーケティンググループ 広報担当）
細谷 直子（マーケティンググループ 広報担当）
丸山 由紀（メディカルヒューマンリソースセクション）
岡本 祥平（メディカルヒューマンリソースセクション）
武内 三恵（メディカルヒューマンリソースセクション）
菅原 千佳（カスタマーリレーションセクション）
原 梨桜（カスタマーリレーションセクション）

石毛 宏一（経理顧問）
気賀 紫都佳（カスタマーリレーション
支援者サービス担当 パートタイム）
栢田 真弓（災害支援・対策セクション パートタイム）
久保田 まいこ（マーケティンググループ パートタイム）
古郡 清隆（管理セクション 経理パートタイム）

◇佐賀事務所 田中 沙織（マーケティンググループ マーケティング担当）

◇ミャンマーオフィス 佐藤 抄（オフィスマネージャー）
河野 朋子（専門医療活動事業担当者）
那須田 玲菜（DreamTrain 事業担当者）

他スタッフ 52 名

◇カンボジアオフィス 佐藤 抄（オフィスマネージャー）
神白 麻衣子（CMEO / カンボジア 病院事業責任者）
藤井 祐美子（看護部長）
小鯖 貴子（看護統括責任者）
鰐川 音寧（看護師）
里見 春佳（アドミニストレーター）

乙黒 聡子 (アドミニストレーター)
大江 隼人 (ロジスティシャン / メディカルエンジニア)
須賀 智絵 (栄養管理部マネージャー・管理栄養士)
木下 渉 (アドミニストレーター)
新井 一晃 (アドミニストレーター)

他スタッフ 148 名

◇ラオスオフィス 松原 遼子 (オフィスマネージャー)
関山 弘子 (看護師)
根釜 宏平 (看護師)

他スタッフ 5 名

II 事業報告 / 海外 (オペレーショングループ)

海外事業セクション 東京オフィス

1. 海外事業の推進

・海外事業全体の中長期計画再策定

海外全拠点を対象とした中長期計画の見直しに着手し、2026 年以降の重点分野、人材育成および資金調達に関する方向性を整理した。

・ソーシャルインパクトレポートの作成

プロボノ支援先のコンサルティングファームと連携し、海外医療事業 (ミャンマー、カンボジア、ラオス) におけるソーシャルインパクトレポートを作成した。各国事業の成果および社会的影響の整理を行った。

・カンボジア事業

2025 年 11 月に、ジャパンハートにおける最大規模のプロジェクトである「ジャパンハート・アジア小児医療センター」を開業した。2025 年 10 月 31 日に開業式典および関連イベントを実施した。

建設業者および医療機器調達先との契約・調整、支援企業の開拓、協賛枠の設計、VIP 病室の導入等を行った。

また、関係省庁、企業、医療機関との連携を進めた。

・ミャンマー事業

国内情勢を踏まえ、現地拠点と連携しながら医療活動の実施地域および内容の調整を行った。安全確保を前提とした活動継続に努めるとともに、政府および関係機関との関係維持、必要な行政手続きへの対応を行った。

また、ミャンマー事業部の体制変更を実施した。

- ・ラオス事業

小児医療プロジェクトの推進および北部地域における甲状腺治療支援に向けた専門家派遣等を実施した。

2. 海外での資金調達・認知度向上

- ・従業員寄付プラットフォーム（海外）での成果拡大

Benevity 等の国際的寄付プラットフォームを通じた海外企業従業員からの寄付獲得を推進し、前年対比で寄付金額が増加した。あわせて、報告書および活動紹介動画の多言語化を進めた。

- ・国外資金調達のための調査・施策

ASEAN 諸国を中心に、日本国外での資金調達可能性に関する調査を実施し、寄付文化や制度環境の整理を行った。

また、カンボジア国内における寄付型イベントや在外邦人・企業向けのプロモーションを実施した。

さらに、カンボジア国内の商工会に加入し、ネットワーキング活動を強化した。

- ・アジア地域における資金調達強化に向けた協議開始

アジア地域における資金調達強化に向け、プロボノパートナーとの協議を開始した。

ミャンマーオフィス

1. 医療活動

1) ワッチェ慈善病院を拠点とした医療活動

- ・2025年3月28日に発生したミャンマー大地震によってワッチェ慈善病院も一部倒壊の被害を受け、病院内での活動が約2ヶ月間ストップした。そのため被災後4日目となる4月1日より、ワッチェ慈善病院前での青空診療と共に、被災地域での巡回診療を実施した。

- ・4月～8月末までの4ヶ月間で、約20カ所の被災地域において4,404名（うち子ども557名）の診療を実施した。

- ・災害支援活動として、ザガイン地域周辺の約4,700の被災世帯に対する食料や生活支援物資（蚊帳・ビニールシート・衛生用品）の支援と共に、被災地域の救急対応病院4カ所に対する医療物資の支援も行なった。

- ・被災後2ヶ月となる6月からは、補修後のワッチェ慈善病院にて日本人医療者参加による手術活動を年間9回に渡って実施し、2,983名（うち子ども595名）に対する外来診療と共に、191件（うち子ども49件）の手術を実施した。

- ・ヤンゴン市内ダゴンセイッカン地区の慈善病院にて、6月には専用の手術室を整備して手術活動を開始し、1,570名（うち子ども95名）に対する外来診療と共に、134名（うち子ども3名）の手術を実施した。

- ・シャン州南部のヨワガン慈善病院では、4回に渡って巡回診療活動を実施し、215名（うち子ども21名）に対する外来診療と共に、46件（うち子ども0件）の手術を実施し、今後の継続的な手

術活動実施のため新たに手術室の整備にも着手した。

- ・国内情勢悪化によって病院までのアクセスの難しい患者にもアプローチするため、ヤンゴンおよびザガイン周辺での巡回活動を強化し、958名（うち子ども548名）の診療を実施した。
- ・ミャンマー人医療スタッフの医療技術および知識の向上のため、カンボジアより日本人臨床検査技師を2回招聘し、エコー診断トレーニングや臨床検査に関するレクチャーを実施した。

2) その他の医療活動

- ・小児外科・小児心臓・口唇口蓋裂の各専門分野において、年間のべ24名の日本人専門家を招聘し、現地の医療者に対する技術指導とともに、合計で217件の手術を実施した。
- ・小児外科分野の活動拠点として、ミャンマー中部マンダレーの子ども病院での手術活動をスタートした。
- ・各分野での専門家招聘数は、口唇口蓋裂分野2名・小児外科分野のべ13名・小児心臓分野7名・麻酔科2名の合計24名で、治療分野の内訳としては口唇口蓋裂手術99件・小児外科手術63件・小児心臓病カテーテル治療55件となった。
- ・口唇口蓋裂分野においては、日本人の口腔外科専門医によるオンラインレクチャーを3回実施するとともに、口蓋裂患者に対する言語トレーナー育成のための介入もスタートした。

2. ミャンマー医療人育成事業

- ・一般財団法人新倉会のサポートによって5名の奨学生を新規採用し、医学生4名と看護大学生3名に対して奨学金支援を実施した。そのうち看護大学生1名が卒業して僻地の病院へ赴任し、もう1名がシンガポールに留学となり支援を中止した。

3. 社会福祉関係

1) 養育施設 Dream Train (ドリームトレイン)

- ・シャン州、ザガイン地方域、エーヤワディー地方域、ヤンゴン地方域、カチン州、ならびにこれまで受け入れ実績のなかったチン州の計6地域から、新たに15名の児童を受け入れた。2025年3月末時点の在籍児童数は120名、累計受け入れ児童数は388名となった。
- ・新棟建設を含むリニューアルプロジェクトを開始した。資金面では、日本NGO連携無償資金協力（ワークショップ費等を含む総額99,996,812円）に採択されたほか、クラウドファンディングにより18,175,818円を調達した。
- ・2024年度大学入試においては、進学希望者8名のうち4名が合格した。うち1名は入試科目（経済）において成績優秀賞を受賞した。
- ・私立学校および公立学校に通う児童のうち、51名が年間を通じた優秀者として学校から表彰を受けた。（学業42名、スポーツ9名）。
- ・日本語教育において、日本語能力試験の結果は下記の通り。N2：合格者0名（受験者2名）、N3：合格者1名（受験者1名）、N4：合格者2名（受験者4名）、N5：合格者2名（受験者4名）。なお、これまでの卒業生のうち、13名が日本への進学または就職を実現している。

2) ミャンマー視覚障がい者自立支援活動

- ・1年間の医療マッサージトレーニングプログラムを継続し、合計10名の卒業生を輩出することができた。
- ・日本人の医療マッサージの専門家を招聘しての特別講義を実施してマッサージ技術向上を図った。

3) サイクロン孤児支援活動

- ・2名の子どもの状況に合わせた、学費および医療費の支援を実施した。

カンボジアオフィス

1. 医療活動

1) ジャパンハートこども医療センター（アジア小児医療センター開院前）

2025年の新病院オープン前には、カンボジア現地の医療スタッフの育成、看護師の採用強化、患者数の増加を推進をおこなった。

・医療スタッフの教育

2025年の新病院開院に向け教育体制の整備、医療安全の向上を目指す。特に、外部と連携し、研修や勉強会の定期的な開催も継続しておこなっている。

・看護師部門

2025年の新病院開院に向け、現在の看護師数では十分ではないため、今期カンボジア人看護師の採用をより強化し、23名採用した。

また、現地スタッフの育成やモバイル活動を推進するために、日本人看護師の採用も強化し、スタッフ数の増加をおこなった。

・小児患者数の増加

2025年は小児外来患者数を5,000人目標としたが、新病院開院前で2000人、開院後で9000人の患者数を突破した。

Facebookでの広報に注力するだけでなく、手術受け入れも促進していく。また、手術待ち患者だけが増える状況を改善し、患者が増加しても手術待ち患者が溜まらない仕組みも合わせて構築していく。

2) 提携病院での活動

2025年度はクロッチュマー病院、チャムカルー病院をメインに手術活動を実施した。今年度も提携病院のスタッフが自立して、ヘルニアや虫垂炎、陰嚢水腫などの手術が行えるように育成することを目標に活動を継続し、クロッチュマー病院については、病院が自立して活動をおこなえる

フェーズになり、継続した支援は終了。

ジャパンハート派遣回数：年6回 オペ活動とスタッフ派遣回数の合計 治療目標件数：40件を達成。

3) 新病院建設プロジェクト

「助かるはずの命を助かるはずだった命にしない」ためにカンボジアにて持続的に高度医療を提供し、更なる支援領域拡大の為、2025年10月プノンペン近郊のタクマウにチャリティのこども新病院「ジャパンハートアジア小児医療センター」を建設するプロジェクトを完遂。

2025年度では

カンボジア新病院の開院後5か月内（2025年度内）に、診療および事務の業務フローの最適化に注力、外来診療は「1,750人/6ヵ月」を大幅に上回る「9,173人/5か月（2026年3月末実績）」を達成。

開院1年以内（2026年11月まで）に病床稼働率70%以上（オープン部分）状況を目指していたが、入院患者数約50人、病棟稼働率50%に留まり、2026年10月までに3病棟目の稼働開始を目指す。開院および達成のために必要な全ての準備を完了。

2. 医療学生 奨学生支援活動

進学した奨学金生に対しては、適宜フォローアップをしていく。医学生・医師に関しては、ジャパンハートカンボジアが注力している小児科、小児外科、麻酔科について、専門コースへの進級を許可し、専門医を育成する。

3. 新しい広報活動の取り組み

1) カンボジア国内における認知度向上

昨年に引き続き2025年度はFacebookのフォロワー数8万5,000人を目指し、結果として105,019人を突破した。

また、カンボジア人広報の採用を行うことができた。ひきつづき、現地での広報業務の推進、国内メディアとの関係構築（定期的リリースを出せる先）に取り組み、国内での認知度向上に努める。

2) ファンドレイジング

2025年度は、日本での調達強化優先と、紛争の影響もあったが、年間寄付総額 247,953USDを獲得した。

法人支援企業新規を4社獲得 することができた。

ラオスオフィス

1. 医療活動

1) ウドムサイ県病院での甲状腺疾患診療・手術プロジェクト

第2フェーズについて、日本内分泌外科学会と引き続き連携し、同学会所属の医師による指導協力を得ながら、手術活動を4回実施した。標準的な症例では、現地医師が執刀と第一助手を担い、日本人医師はサポートとして関与する体制が定着しつつある。現地の状況に合わせた安全管理の手法を導入し、現地医療者による術後出血の早期発見など、実践的な力の向上が見られる。また、術前・術後診察の指導を5回実施したほか、学会所属医師による薬物治療調整や超音波検査技術を中心とした集中的な内科診療指導を1回実施し、内科診療技術・知識の深化に努めた。これら進展を踏まえ、第2フェーズ延長計画の策定と第3フェーズを見据えた検討を開始。関係者との協議を進めている。

2) 個人診療

2名の患者について、引き続きそれぞれのサポートを行った。斜顔裂の患者については、毎月電話でのヒアリングを実施した。末期がんの患者については、カンボジア JHMC の協力を得ながら、継続的な服用が必要な薬の購入をサポートした。

3) 小児プロジェクト

九州大学病院による指導協力を得ながら、年2回の手術活動を実施し、腎芽腫を始めとする9名の患者をサポートした。また、日本人専門医師を招聘して、抗がん剤準備の安全管理を含む年3回の化学療法指導を実施した。加えて、技術移転に必要な知識の維持・補完のため、オンライン・オフラインで月最低1回のレクチャー・症例検討を行った。SNSで継続的に活動内容を発信し認知拡大に努めたほか、患者アクセスの強化を目的として地方4都市の県病院を訪問し、情報共有と連携強化を図った。実際に腎芽腫の患者1名の紹介に繋がりを、ビエンチャン子ども病院へ転院のうえ治療を開始した。

2. 広報・ファンドレイジング活動

ラオス国内外で事業内容を積極的に発信し、約260万円の資金を獲得した。SNSの安定的な運用体制を構築し、フォロワー数を、目標を超える1,538名へ増加させた。

Ⅲ. 事業報告/国内（オペレーショングループ）

災害支援・対策セクション

2025年度は前年度に引き続き組織体制の強化を行うと同時に、2024年1月1日に発生した令和6

年能登半島地震を受けて中長期支援活動を継続した。また、平時の取り組みとして団体内および自治体等による訓練への参加を行い、発災時のより適切な支援体制構築に努めた。

1. 組織内部強化

調整員1名、看護師1名がチームに参画した。

また、発災時の人員確保のため災害ボランティア登録者2名と新たに業務委託契約を行った。

2. 自然災害時緊急救援

1) 令和6年能登半島地震（2024年1月2日～）

中長期支援としてサロン活動および仮設住宅訪問支援等を継続しており、派遣者数はのべ計102名となった（2026年4月まで）。

a. サロン活動

仮設住宅への入居に伴う孤立防止やセルフケアの促進を目的として、2024年6月以降能登町および輪島市の12地区で月1回の医療者によるサロン活動を継続した。なお、2026年3月より、活動地区を3か所に縮小。2026年4月現在に至るまでの来場者数はのべ1,710名となった。

b. 仮設住宅訪問活動

保健師と連携し、個別に看護師ないし作業療法士による訪問活動を行った。訪問看護件数は2024年6月以降のべ1,014件、訪問リハビリテーション件数は2025年4月以降のべ187件となった。

c. 健康チェック企画

輪島市社会福祉協議会と連携し、受診率の低下と潜在的な健康リスクの拾い上げを目的として、2025年11月より健康チェック企画を開始した。初回は輪島市内2地区で開催し、計42名に対して心電図やエコー診断をはじめ体力測定などの検査を行った。

d. BLS研修

能登地域の学生に対して、BLS（応急救命処置）とキャリア教育の研修を実施した。2026年4月までに、能登町、輪島市、七尾市、志賀町の中学校と高校で計5校、288名が受講した。

e. レポート作成

サロン活動参加者に対して実施したアンケート結果をもとに、能登半島の現状とこれまでのジャパンハートの支援に関するレポートを作成し公表した。

3. iER ボランティア登録制度

1) 新規登録数

各回実地16名定員にて開催

- ・第15回研修：8月9日（土）～10日（日）に東京会場で実施、参加者数16名
- ・第16回研修：1月24日（土）～25日（日）に東京会場で実施、参加者数18名

2) 既存登録者ステップアップ研修

医療従事者向け、ロジスティクス向けとして計4回実施

- ・医療ステップアップ研修：2025年11月、2026年2月開催
- ・ロジスティクスステップアップ研修：2026年2月、同3月開催

3) 海外研修

2025年度より、カンボジアプレイベン州にて災害支援海外研修を実施した。2025年4月26日～5月7日までに計9名が参加した。

4. 国内外ネットワーク作りと強化

1) 自治体・企業・医療機関との協定

- ・2025年7月、エートス協同組合との災害連携に関する覚書を締結

2) 学会発表

- ・2026年3月日本災害医学会での発表を実施（パネルディスカッション1、ポスター発表1）

5. 各地拠点

・郡山：2024年7月の株式会社フクダ・アンド・パートナーズとの協定に基づき、福島郡山未来共創センターに医療資機材等を実装

スマイルスマイルプロジェクトセクション

活動15年目となったが、小児がんと向き合うこどもと家族、小児がん拠点病院等施設への活動認知に伴い、依頼を受けるお子さんの重症度は高まっており、また複数回依頼される家族が増加している。2025年度は、子どもを中心に専門性に基づいた質の高いケア提供ができる体制の再構築を目指し、スタッフの知識と技術に裏付けされた医療的ケア、緩和ケアを提供できる強いチーム作りに努めた。

1. 活動実績

・全体を通して述べ415名の子どもと家族へ外出・旅行支援を実施。参加ボランティアは、SSPサポーターと企業ボランティアあわせ、293名であった。

1) 個別企画

問い合わせは108件、依頼数55件、うち48件が旅行実施。依頼を受けたが未実施となった7件は、準備の段階で子どもの体調急変や逝去されたことによるキャンセルであった。依頼の約半数が旅行先にディズニーリゾートを希望されるが、他にもユニバーサルスタジオジャパンやハウステンボス等テーマパークが人気。沖縄旅行や温泉地への依頼も多い。

2) 招待企画

支援企業と協働して11件のイベントを実施。各イベント6～7組の家族招待がほとんどだが、9月に開催したユニバーサルスタジオジャパンでは約7倍の抽選となった。九州イベント

は、9年間支援を継続していただいております、2025年もハウステンボスで開催。子どもに人気の職業体験施設

キッザニアは東京、甲子園、福岡と各地で開催した。

3) レモネードスタンド出展

2025年度より、小児がん支援の拡大、啓発を目的としたレモネードスタンドを開催（東京3回、神奈川、香川）年間で1,223本のレモネード等飲料を販売し、小児がんや活動についてのチラシ1000枚を配布、募金活動も実施。子育て世代含め幅広い年代へ直接説明し支援の必要性を知ってもらおうきっかけとなった。

2. 支援者サービス

・SSPサポーター制度の見直しを図り、ボランティア登録説明会を3回実施。新規登録者は5名であった。ボランティア参加後アンケートを踏まえ、満足度向上のため意図的なコミュニケーションに努め、サポーター向けニュースレターの発行、活動への参加機会の提供、サポーター同士の交流の場を設けた。これらの取り組みにより、年間登録であるサポーター継続率は83%であった。

・支援企業向け講演や事業紹介、支援への活動報告会を実施し、小児がん啓発とともに支援強化に取り組んだ。

3. 人材強化

・小児経験のある看護師2名を新規採用。当初1名の予定だったが、産前産後休暇を取得するスタッフの補充の必要性が発生したため、2名となった。

・HRと連携し、奄美大島の病院へスタッフ2名が外向。離島医療の経験を通し、病院への人材貢献のみならず、それぞれの看護観やキャリアを再確認する機会となった。

・定期的な症例カンファレンス、毎月の1on1を実施。また、知見を深めるための研修や学術集会参加の調整、サポートを実施した。

IV. マーケティンググループ（広報 / ファンドレイジング）

2025年度は更なる寄付の獲得に向け、広報面でもファンドレイジング面でも分業・専門化をはかり、新しい施策への取り組みや、既存施策の強化を計った年となった。

新入職員も迎え、10名体制となり、一人一人が力を発揮し、様々な施策に取り組むことが出来た。

1. 広報活動 ～支援拡大へ向けた団体の認知拡大、社会価値向上～

1) アワード

4月：正力松太郎賞特別賞（吉岡秀人）

2) 能動的なメディア露出強化

a) テレビ番組への出演 (2025 年度)

10月: 「国際報道」内 吉岡秀人スタジオ出演+ミャンマーVTR特集 (NHK)

11月: 「テレ金 NEWS NNN」内 iER 取材 (テレビ金沢)

12月: 「情熱大陸」 カンボジア アジア小児医療センター特集 (MBS/TBS)

※その他、ミャンマー地震支援、能登支援、カンボジア新病院のトピックにて複数番組に出演

b) その他メディアへの出演と掲載

5月: 新聞「朝日新聞」ミャンマー大地震支援活動 取材・掲載

9月: 新聞「東京新聞」スマイルスマイルプロジェクト 取材・掲載

3月: 新聞「日本経済新聞」吉岡秀人 取材・掲載 (夕刊「人間発見」)

※その他各事業部が地方新聞、複数メディアに登場

3) SNS による認知拡大、また、各指標の拡大

これまで実施できていなかった各 SNS の特徴を踏まえたアプローチを実施し、それぞれ、閲覧数・反応率・表示回数など、前年比大幅拡大。成功パターンの再現と改善サイクルを確立。

- ・Instagram: リール・テキスト画像投稿を強化
- ・Facebook: 支援者との接点強化を中心に運用
- ・X: 独自投稿とリアルタイム対応により活用を強化

4) AC ジャパン

2025年: 俳優、館ひろし氏をメインキャラクターに災害支援の広告展開

2026年: 2024年より、3年目の採択が決定

2. ファンドレイジング ～目標額の達成、継続した寄付基盤づくりに向けた体制づくり～

1) 大規模イベント、また、定期的な小・中規模イベントの開催

ロイヤルティ向上に向け、規模・方法も様々にイベントを実施。延べ、約 500 名の方

4月: 「コウノドリ」著者 鈴木ユウ氏 × 吉岡秀人トークセッション

10月: カンボジア新病院「アジア小児医療センター」現地ツアー (名誉ファウンダー・支援企業向け)

12月: 吉岡秀人 30周年イベント

※その他、毎月の法人向けオンラインセミナー、不定期の活動報告会実施

2) 個人版ふるさと納税、また、企業版ふるさと納税への取り組み強化

・個人版ふるさと納税: 返礼品の拡充、加えて、DM/個別アプローチ/企業への協力依頼/講演会等での周知を図り、前年度比 133%の約 2000 万円の寄付額を達成

・法人版ふるさと納税: 佐賀県の「企業版ふるさと納税活用型 CSO 地域課題解決支援事業」に採択。法人様からのふるさと納税寄付の募集も開始

3) 年間4回のクラウドファンディングの実施

これまでのノウハウを発揮し、プロジェクトに応じた寄付額・プラットフォームにて年間4回実施。

結果は年間目標額 6000 万に対し 5500 万と惜しくも 90%と未達だったが、知見を最大限に活かし、DreamTrainCF では目標額 1.8 倍の 1800 万を達成。

・実施プロジェクト：カンボジア新病院(2回/READY FOR)、ミャンマー大地震 (READY FOR)、ミャンマー児童養育施設 DreamTrain (Congrant)

4) ”こころの花束”の導入拡大

祝意に代える寄付スキームである”こころの花束”の導入企業が 30 社に到達。

新たな仕組みとして着実に拡大。

カスタマーリレーション

支援者との継続的な関係強化を目的に、以下の取り組みを実施した。

【主な結果】

- 継続支援者の年間退会率：13.2%（目標 12.6%以下）であり未達であった
※一時解約を除く実質値：12.7%と目標に近い水準であった
※例年概ね 11~13%の範囲で推移しており、大きな変動はない状況である
- 退会理由の取得・分析を実施（取得率：約 53%）
→約 75%が経済的理由や生活環境の変化等の外的要因
- 継続支援者へのアンケート調査を実施
→「納得感」や「無理のない支援」「習慣化」が継続の主な要因と判明

【施策】

- メールによる継続的な情報提供（節目・定期配信）を実施し、支援者との接点強化を図った
- 継続支援者向けアンケート調査を実施し、継続理由の把握を行った

【総括】

退会率は未達であったが、「なぜ退会するか」「なぜ継続するか」の構造をデータとして把握できた1年であった。

V. アドミニストレーショングループ（管理・組織・人材・経理）

ヒューマンリソース（人事・採用・労務）

1. 採用活動

- ・採用数については年間目標人数を達成した。一方で、優先ポジションとの乖離があり、必要ポジションの充足という観点では課題が残った。
- ・カジュアル面談を 55 名実施（目標 24 名）し、母集団形成および採用パイプラインの強化は一定機能した。
- ・採用活動における応募転換率は約 15%にとどまり、母集団の拡大に対して、訴求内容や候補者の質の向上に課題が残った。
- ・採用の優先順位設計が不十分であり、採用活動全体としてのリソース配分および充足戦略に改善余地が残った。
- ・採用広報施策やイベント、SNS 施策については検討を行ったが、人事評価制度改定を優先したことにより実施には至らなかった。

2. 人事・組織

- ・人事評価制度の改変を実施し、評価の考え方および運用設計の見直しを行った。
- ・離職に関する課題については一定の把握はできたものの、具体的な改善施策の実行には至らなかった。

管理（組織・総務）

- ・海外物資輸送について、年間計画に基づく管理体制を構築し、場当たりの対応からの脱却を図った。スケジュールおよび必要物資の事前整理が可能な状態となった。
- ・海外拠点の規則・規定を整理し、検索可能なデータベースを構築。属人的な確認から、誰でも参照可能な環境への移行を完了した。
- ・海外事業地における内部監査を実施し、会計・物品・薬品管理を中心に現地の運用状況の確認および課題の洗い出しを行った。
- ・リスク管理については、着手および試行を通じて課題の特定までは実施したが、本格的な運用は次年度へ持ち越しとなった。
- ・セキュリティ対策の強化および海外事業地における内部監査については、検討・準備を進めたが、本格的な運用には至らなかった。

経理・財務

- ・納税手続きのダイレクト納付への切り替えを実施し、業務の効率化および処理スピードの向上を図った。
- ・紙原本に依存した業務の見直しを進め、経理業務の電子化を推進した。

・資金管理および固定資産管理については一部対応を行ったが、体制整備や引継ぎ対応を優先したため、十分な対応には至らなかった。

・中長期的な資金計画の見直しや、資産管理の高度化については、検討段階にとどまり、実行は次年度以降の課題となった。

メディカルヒューマンリソース（医療人材採用・育成、離島・へき地医療支援）

1. メディカルチーム

1) 医療人材確保

2025年度のメディカルチームの新規参加者数は以下のとおり。

医師6名、看護師12名、助産師2名、臨床検査技師1名、診療放射線技師1名、薬剤師2名、理学療法士1名、子ども支援スタッフ1名。

アジア小児医療センターの開設に伴い、医師およびコメディカルを含む多職種の需要が増加したことから、採用強化を実施した。活動報告・説明会およびオンライン個別相談を通じた接点創出に加え、通年募集から季節募集へと切り替え、活動開始時期および応募締切を明確化した。また、OGOコミュニティを活用し、アジア小児医療センター開設時には、OGO医療者5名がカンボジアにてオープニングメンバーとして中核を担った。

2) 既存人材の強化と活用

メディカルチームのサポート体制として、対面でのキックオフ研修、および現地での1on1面談の定着化を図った。特に看護師については、国内活動中に定期的な面談を実施し、海外活動に向けた課題への取り組みと意識醸成を行った。これにより、海外活動において当事者意識を持ち、主体的に問題解決に取り組むための基盤を整備した。また、各国間で定期的な情報交換の場を設け、各メンバーの強みやスキルを国・プロジェクト間で共有した。これにより、適切な人材配置が可能となり、各国の活動の円滑化および、メンバーのモチベーション向上につながった。

3) ボランティア事業

アジア小児医療センターの開設により活動地が2拠点となり、地方での移動診療も開始したことから、短期医療ボランティアの受け入れ体制を見直した。受け入れ側のニーズと参加者の満足度の両立を目的に体制およびプログラムを整備し、新規職種（臨床工学技士、栄養士等）の受け入れを開始するとともに、これまでツアー形式のみであった看護師・助産師についても短期受け入れを再開した。

2. RIKAJob（離島・へき地医療支援）

1) 有料広告による JH 認知の拡大

国内の離島・へき地医療と言えば「RIKAjob で」というブランド化に向け、まずは看護師がよく利用する SNS 媒体での有料広告を活用した。RIKAjob サイトアクセス数が増加した（2024 年度より約 4～7 倍）一方で、個別相談件数は伸び悩みを見せた。そのため、サイト訪問者が欲しい情報を見直し、看護師・助産師インスタグラムでの情報発信の活性化や説明会土曜枠開催を追加、個別相談の時間幅を延長したことで、個別相談件数を徐々に伸ばした。また、有料広告のリンク先となる「RIKAjob サイト」を見直し、2026 年 4 月に向けリニューアルできるよう更新作業を行った。

2) 紹介者数の増加

看護師・助産師のジャパンハートとの提携機関への紹介数は、58 件。

（同じ人が複数機関に入職されるため 1 案件換算としている）

対比：2024 年度は紹介数 45 件。

なお、利用者数の増加とニーズに応えるため 2025 年度中に一部形態の変更を行った。

3) 病院との協働と条件整理

各医療機関との打ち合わせ・訪問等を通じ、有料紹介や派遣会社ではなく RIKAJob を必要としている機関、協働で地域医療の維持を期待している機関を強化医療機関とし、採用に関する課題解決に向けた対策や説明会開催のサポート等を実施した。結果、該当医療機関の指定応募も発生するようになった。

4) 入職者フォロー

地域医療に携わること自体が初めてという方が多く、また、初めての転職の方も一定数いるため、入職直後の面談を通じて悩み、辛さなどを共有いただき精神面でのサポートを行った。また、今後のキャリア面談も実施することで、現職が終わった後の将来に対する不安を払拭できるキャリアサポートも開始できた。

5) 災害支援スキームの整理

紹介が一定数継続して行えていないこともあり、現行の契約数からの拡大は難しかったが、災害支援対策のチームがあることを RIKAJob 経由で入職された看護師がいる医療機関に説明し、今後の発災時に相談があることを説明し、理解はしてもらった。

第2号議案 2025年度決算報告
2025年度 活動計算書

税込表示
(単位：円)

2025年4月1日から2026年3月31日まで

科目	前々年度決算額	前年度決算額	今年度決算額	決算に関する特記事項	予算対比	当初予算額	さらに詳細
経常収益							
受取会費	17,236,000	15,545,000	16,583,378		▲ 76,622	16,660,000	正会費1,187万円 (+88万円) 賛助会費414万円 (+13万円)
受取寄付金	989,137,447	1,832,719,026	1,180,813,179	ダイボウ情報システム様より前年に引き続き1億円のご寄付をいただいた。 また、個人の方より7千3百万円の遺贈寄附をいただいた。 中外製薬様より6千万円のご寄附をいただいた。	▲59,638,000	1,240,000,000	
受取助成金等	75,808,555	6,490,000	110,734,512	外務省国際協力局NGO協力推進室より日本NGO連携無償資金協力をいただいた(約1億円)。	105,384,512	5,350,000	
事業収益	42,841,815	24,073,151	23,378,887		11,142,887	12,236,000	長期(海外):0万円 (-37万円)、短期(海外):585万円 (+82万円)、国内セミナーイベント:356万円 (+67万円)、海外セミナー・イベント:1397万円 (+172万円)
その他収益	111,067,135	126,330,345	43,396,631	為替差益が86百万円から27百万円に大幅に減少。受取利息も前年度は定期預金の解約で40百万円あったが、当期は14百万円に減少。	43,396,631	0	
当期経常収益合計 A	1,236,090,952	2,005,157,522	1,374,906,587		100,660,587	1,274,246,000	
経常費用							
【事業費】	569,094,146	773,945,708	1,223,511,261		72,773,522	1,296,284,783	
人件費	269,246,570	357,173,994	387,819,173	カンボジア新病院の件費3,754万円が前年より増加した主因	53,342,725	441,161,898	
顧問・アドバイザー料	400,000	1,363,585	1,262,951	法務顧問料44万円、外部監査料37万円、医療アドバイザーの顧問料30万円、JBACMembership15万円	▲ 52,951	1,210,000	
業務委託費	23,361,595	21,378,944	27,991,056	国内ではセールスドライブ営業代行業務費用が788万円から987万円に増加、海外では、カンボジア新病院の開院式のための諸設営の委託費が約400万円発生	11,111,884	39,102,940	
通信運搬費	4,891,475	7,113,040	13,575,899	カンボジア新病院建設に必要な資材の運送費274万円、新病院にインターネットを導入する費用251万円が費用増加の主因	▲ 7,219,679	6,356,220	
医療器具・備品費	5,158,517	4,887,420	76,692,160	ほとんどが、カンボジア新病院用の医療器具備品の購入費	▲ 63,157,127	13,535,033	
医療支援費	59,866,311	0	0		0	0	
医薬品		34,450,907	29,882,188		2,724,162	32,606,350	
医療資材		21,287,628	31,506,312	針付ブイゾーブの物品寄付をいただき、寄付金勘定に計上するとともに医療資材勘定に経費計上した(957万円)	▲ 4,793,631	26,712,681	
検査費		13,454,713	12,873,459		3,815,918	16,689,377	
患者物品購入費			215,510	今年度新設された勘定科目	1,777,581	1,993,091	
学業支援費	12,943,992	15,502,677	13,142,570	Dream Train560万円、前年比407万円減	595,118	13,737,688	夢の懸け橋673万円(前年比286万円増)、カンボジア病院0万円(116万円減)
子ども支援費	6,396,084	7,807,868	4,918,224	スマイルスマイルプロジェクトの活動が、前年度及び、予算より少なかったため。	5,081,776	10,000,000	
旅費交通費	46,431,546	52,376,186	50,379,042		6,837,092	57,216,134	
水道光熱費	9,014,683	11,067,708	9,077,250	YGN30万円(前年比39万円減)。DT137万円(前年比70万円減)、カンボジア病院656万円(102万円減)。予算にはカンボジア新病院の電気料金が含まれているが、電気料金は国が負担してくれている。	18,010,125	27,087,375	
広告宣伝費	13,199,305	36,908,168	40,358,508	前年度も今年度もACジャパンへの基本広告製作費一式等合計22百万円の支払が発生。	▲ 9,631,508	30,727,000	
研修費	2,416,452	2,151,967	302,985	前年度にはマネージメントサービスセンター医療推進ワークショップコンサルティング費用178万円発生。今年度はなし。	511,015	814,000	
人材派遣費			3,654,097	労務担当派遣スタッフ(広報等)の件数。前年度は業務委託費計上(80万円)	▲ 1,074,097	2,580,000	
会議費	931,825	1,396,514	1,274,404		1,297,642	2,572,046	
接待交際費	279,957	540,774	512,838		▲ 144,066	368,772	
消耗品費	12,967,255	16,983,596	58,177,835	カンボジア新病院用の備品の購入費約2000万円、ユニフォーム等購入費300万円、ミャンマーの地震対処のためのシェルター等の購入費約2000万円が当期経費増加の主因	▲ 11,643,609	46,534,226	
食材費	31,887,387	40,114,387	28,402,292	カンボジア病院が1662万円から903万円に759万円減、ミャンマー専門医が278万円から149万円へ129万円減、Dream Trainが1719万円から1087万円へ632万円減、いずれも食事支給対象者の減少による。	▲ 819,142	27,583,150	
新聞図書費	46,094	90,631	20,797		53,067	73,864	
印刷製本費	3,678,279	4,023,010	10,189,632	夏・冬ダイレクトメールの製作費394万円が前年より費用増加の主因	20,957,118	31,146,750	
セミナー・イベント開催費	1,837,274	3,402,176	2,214,744		6,410,923	8,625,667	
海外スタディツアー開催費	0	0	0	今年度も該当ツアーの開催はなし	1,800,000	1,800,000	
工事・修繕費	2,078,849	2,570,549	8,521,581	ワッチェ病院のリノベーション費用約400万円が前年比費用増加理由	▲ 4,791,569	3,730,012	

賃借料	638,473	1,865,495	1,753,222		227,784	1,981,006
地代・家賃	12,498,714	13,885,252	15,448,142		▲2,287,942	13,160,200
車両費	5,680,571	6,982,883	6,105,770		105,669	6,211,439
保険料	5,157,930	4,303,174	4,424,239		1,074,060	5,498,299
諸謝金	2,697,170	1,696,737	1,020,000	講演機会減少による講演料支払い額減少	▲843,200	176,800
諸会費	573,142	632,929	797,930		▲296,596	501,334
リース料	0	460,680	1,382,040	自動車リース料前年は4ヶ月、本年は12ヶ月	0	1,382,040
支払手数料	4,323,008	4,834,896	23,049,767	クラウドファンディングレディーフォーの手数料(800万円)、電子医療記録システムの導入(560万円)が経費増加の主因。	▲7,170,484	15,879,283
雑費	12,218	63,061	20,160		119,954	140,114
寄付金支出	0	0	0		0	0
租税公課	978,706	1,144,233	1,152,252		▲102,252	1,050,000
期首書籍等	810,666	625,149	614,985		▲614,985	0
当期書籍等仕入高	361,630	1,386,796	107,090		27,910	135,000
他勘定振替	▲303,885	▲1,290,332	▲1,600		1,600	0
期末書籍等	▲625,149	▲614,985	▲615,855		615,855	0
書籍等販売原価	243,262	105,646	104,620		▲104,620	0
減価償却費	29,257,502	81,923,298	355,287,612	日本、ミャンマー、カンボジア、ラオスに 昨年2月に導入したアルムモバイル医療機器セットの今年度の減価償却費294万円	50,917,382	406,204,994
【管理費】	43,715,489	40,365,110	46,047,134		▲4,255,391	50,302,525
人件費	16,346,862	9,282,364	12,262,392	管理部職員1名増員による経費増加	3,421,133	15,683,525
業務委託費	3,908,144	6,214,676	7,256,266	2025年12月より経理業務を外注(176万円)	▲3,100,266	4,156,000
通信運搬費	945,499	1,084,460	1,229,864		▲49,864	1,180,000
水道光熱費	541,777	521,541	507,959		104,041	612,000
旅費交通費	517,872	243,352	384,859	監査のためカンボジアへ旅行した日本人スタッフの旅費交通費(14万円)が増加理由	▲84,859	300,000
広告宣伝費	1,737,359	0	0		0	0
研修費	0	0	0		10,000	10,000
会議費	21,957	2,573	15,150		▲150	15,000
接待交際費	0	0	0		0	0
消耗品費	880,709	380,969	389,290		460,710	850,000
新聞図書費	0	0	0		0	0
印刷製本費	495,044	570,062	720,924	複合機パフォーマンスチャージ	▲240,924	480,000
工事・修繕費	0	153,868	31,900		▲31,900	0
賃借料	0	0	417,975	海外総務用のハローストレージ倉庫賃借料	▲417,975	0
地代・家賃	7,177,386	7,942,270	7,996,568	前年より増加主因は2026年2月に賃借開始の浅草田原町レジデンス。	▲136,568	7,860,000
保険料	42,000	274,830	553,160	サイバー被害補償保険料28万円の他は管理スタッフ等の海外出張保険料。	▲268,160	285,000
租税公課	12,705	9,850	10,590		9,410	20,000
諸会費	215,800	391,800	385,900	JANIC会員年会費28万円、NGOユニット会費10万円	▲49,900	336,000
リース料	363,000	396,000	396,000	日立キャピタル複合機リース料金(3,300円×12ヶ月分)。	0	396,000
支払手数料	10,284,045	12,690,242	13,382,063	ROBOT PAYMENTカード決済手数料724万円、マネーフォワードクラウド経費216万円その他は海外送金・振込手数料	4,567,937	17,950,000
雑費	78,370	193,320	99,025		148,000	148,000
雑損失	0	1,567	7,249		▲7,249	0
減価償却費	146,960	11,366	0		21,000	21,000
為替差損	0	0	0		0	0
租税(消費税)	0	0	0		0	0
当期経常費用合計 B	612,809,635	814,310,818	1,269,558,395		▲77,028,913	1,346,587,308
当期経常増減額 A-B	623,281,317	1,190,846,704	105,348,192		177,689,500	-72,341,308
経常外収益						
【経常外収益】						
固定資産売却益						
前期損益修正益						
経常外費用						
【経常外費用】						
前期損益修正損						
過年度受取参加費返金	900,000	150,000				
過年度受取助成金返金						
税引前当期正味財産増減額	622,381,317	1,190,696,704	105,348,192			
法人税・住民税・事業税	151,000	2,353,015	246,023			
当期正味財産増減額	622,230,317	1,188,343,689	105,102,169			
前期繰越正味財産額	1,542,073,430	2,164,303,747	3,352,647,436			
次期繰越正味財産額	2,164,303,747	3,352,647,436	3,457,749,605			

貸借対照表

2026年3月31日現在

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
	円		円
【流動資産】	【 1,172,439,750 】	【流動負債】	【 40,028,738 】
現金及び預金	531,583,584	未払金	39,087,630
書籍	642,412	預り金	790,108
前払費用	2,809,495	未払法人税等	151,000
未収金	452,530		
立替金	111,276		
仮払金	2,027,406		
前渡金	28,600,111		
特定資産	606,212,936		
【固定資産】	【 2,325,338,593 】		
(有形固定資産)	(2,276,043,829)	負債の部合計	40,028,738
建物	1,218,806,407	正味財産の部	
建物附属設備	426,088,454	前期繰越正味財産	3,352,647,436
構築物	17,536,136	当期正味財産増減額	105,102,169
車両運搬具	12,571,687		
工具器具備品	565,042,658		
土地	406,029		
建設仮勘定	35,592,458		
(無形固定資産)	(15,708,758)		
ミャンマー土地賃借権	15,708,758		
(投資その他の資産)	(33,586,006)		
投資有価証券	30,000,000		
敷金	3,162,294		
長期前払費用	423,712	正味財産の部合計	3,457,749,605
資産の部合計	3,497,778,343	負債及び正味財産の部合計	3,497,778,343

2026年3月期 計算書類の注記
 特定非営利活動法人 ジャパンハート

1. 重要な会計方針
 計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協議会）によっています。
- (1) 資産の評価基準及び評価方法
 ① 棚卸資産の評価基準及び評価方法
 最終仕入原価法を採用しています。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
 ① 有形固定資産
 定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く。)
 並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法。)を採用しています。
- (3) 消費税等の会計処理
 消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2. 固定資産の増減内訳

(単位:円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
海外土地	406,029	0	0	406,029	0	406,029
海外建物	253,619,748	1,024,151,621	0	1,277,771,369	58,964,962	1,218,806,407
国内建物附属設備	440,000	0	0	440,000	439,999	1
海外建物附属設備	47,907,936	407,213,004	0	455,120,940	29,032,487	426,088,453
海外構築物	14,622,066	10,194,442	0	24,816,508	7,280,372	17,536,136
国内車輛運搬具	10,822,511	0	0	10,822,511	5,732,344	5,090,167
海外車輛運搬具	27,138,904	9,972,021	0	37,110,925	29,629,405	7,481,520
国内什器備品	264,761,735	141,900	0	264,903,635	116,401,826	148,501,809
海外什器備品	676,872,998	128,152,651	0	805,025,649	388,484,800	416,540,849
一括償却資産	0	0	0	0	0	0
建設仮勘定	760,089,445	0	724,496,987	35,592,458	0	35,592,458
無形固定資産						
ミャンマー土地賃借権	22,610,708	0	0	22,610,708	6,901,950	15,708,758
ソフトウェア	0	0	0	0	0	0
投資その他の資産						
敷金	2,529,299	730,995	98,000	3,162,294	0	3,162,294
	0	0	0	0	0	0
合計	2,081,821,379	1,580,556,634	724,594,987	2,937,783,026	642,868,145	2,294,914,881

令和7年度 財産目録

令和8年3月31日現在

特定非営利活動法人 ジャパンハート
(単位：円)

科 目	金 額	
I. 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		531,583,584
手元現金	54,773,715	
三菱UFJ銀行外貨預金	47,995,810	
大和ネクスト銀行 外貨普通預金	1,174	
三菱UFJ銀行普通預金	2,739,198	
三井住友銀行普通預金	54,122,934	
朝日信用金庫普通預金	31,571	
佐賀銀行普通預金	101,473	
みずほ銀行普通預金	485,523	
GMOあおぞらネット銀行普通預金	119,302,123	
(特定資産へ振替)	△ 100,000,000	
大和ネクスト銀行 円普通預金	699	
ゆうちょ銀行普通預金	5,204,127	
ゆうちょ銀行当座預金	131,160,532	
(特定資産へ振替)	△ 130,000,000	
ゆうちょ銀行当座預金	44,995,327	
ゆうちょ銀行当座預金	223,342,205	
(特定資産へ振替)	△ 216,212,936	
ゆうちょ銀行当座預金	6,591,478	
朝日信用金庫定期預金	10,000,000	
ABA Bank Cambodia C_ABA_F1	47,964,000	
ABA Bank Cambodia C_ABA_PR	4,571,661	
ABA Bank Cambodia C_ABA_1	7,248,308	
ACLEDA Bank Cambodia C_ACLEDA	7,703,107	
三菱UFJ銀行 ユーロ口座	11	
三井住友銀行 ドル預金	14,990,476	
BCEL i-Bank ラオス・ドル口座 L_BCEL_USD	8,926,698	
BCEL i-Bank ラオス・KIP口座 L_BCEL_LAK	324,944	
BCEL i-Bank KIP 寄付用ラオス L_BCEL_LAK_D	1,381	
KANBAWZA BANK USD ミャンマー KBZ_USD	13,347	
Wing Bank C_WING	130,729	
ASIAWEILUY Cambodia C_ASIAWEILUY	149,140	
ASIAWEILUY QR C_ASIAWEILUY_QR	6,241,916	
KANBAWZA BANK KBZ_MMK_DT	469	
KANBAWZA BANK ミャンマー DT_N連_KBZ_USD	3,277	
Foreign Trade Bank Cambodia C_FTB	33,553,227	
(特定資産へ振替)	△ 30,000,000	
Foreign Trade Bank Cambodia C_FTB_D	235,167	
セントラル短資FX(株) 円預金	89,476,998	
(特定資産へ振替)	△ 80,000,000	
Myanma Foreign Trade Bank MFTB	16,058	
Myanmar Economic Bank MED_DT	1,931,161	
Sathapana Bank C_SATHAPANA	57,608,649	
(特定資産へ振替)	△ 50,000,000	
FTB Bank Cambodia C_FTB_KHR	11,268	
KANBAWZA BANK KBZ_MMK_C	14,444	

KANBAWZA BANK KBZ_MMK_SC	12,903,078	
KANBAWZA BANK DT_N連_KBZ_MMK	49,446,718	
CB Bank PCL CB_MMK_SC	160,090	
CB Bank PCL CB_MMK_NC	4,827	
AYA Bank AYA_MMK_S	377,617	
ABA Bank Cambodia C_ABA_KHR	618,653	
ABA Bank Cambodia C_ABA_UDN	3,833	
PPCBank C_PPC_S_USD	304,232	
PPCBank C_PPC_S_KHR	1,174,147	
Chip Mong Bank C_CM_S_USD	784,307	
Chip Mong Bank C_CM_S_KHR	586,573	
PPCBank C_PPC_F_1	89,468,120	
棚卸資産		
書籍	642,412	
前払費用		
海外家賃等	2,809,495	
前渡金		
医療器具購入費用	28,600,111	
立替金		
一般正会費等	111,276	
仮払金		
海外事業仮払金等	2,027,406	
未収金		
イベント企画料等	452,530	
特定資産		
GMOあおぞらネット銀行	100,000,000	
ゆうちょ銀行当座預金	130,000,000	
ゆうちょ銀行当座預金	216,212,936	
Foreign Trade Bank Cambodia C_FTB	30,000,000	
セントラル短資FX(株) 円預金	80,000,000	
Sathapana Bank C_SATHAPANA	50,000,000	
流動資産合計		1,172,439,750
2. 固定資産		
(1) 有形固定資産		
建物		
ミャンマースタッフ宿舎	3,034,706	
ミャンマースタッフ宿舎 追加工事	241,312	
カンボジア病院建設	31,313,152	
カンボジア小児科医療センター	59,967,066	
カンボジア病院 外来待合室	1,022,679	
カンボジア病院 スタッフハウス	29,725,836	
カンボジア病院 スタッフハウス 階段/手摺工事	411,810	
カンボジア病院 AAMC病院給食センター	26,409,717	
カンボジア人 スタッフ新宿舎	8,380,077	
カンボジア人 スタッフ新宿舎 1階追加工事	2,102,936	
カンボジア病院 研修棟	39,665,064	
ウムサイ病院 甲状腺疾患診療用建物	1,256,409	
C新病院 建物建築の為に土地の測量費用	321,421	
C新病院 土壌調査	192,769	
C新病院 土地造成工事12,000㎡	25,945,890	
C新病院 土地造成工事3,000㎡	5,119,494	
C新病院 土壌調査	582,891	
C新病院 病院建物	983,113,178	

建物付属設備

カンボジア病院 変圧器等	1,268,289
カンボジア病院 陶器手洗器設置工事 分水工事	324,355
カンボジア病院 患者用導線屋根	33,893
カンボジア病院 変圧器(増設)	1,957,073
カンボジア病院 AAMC病院給食センター 厨房機器一式	12,379,037
カンボジア病院 電気ケーブル Phase1.2	810,099
カンボジア病院 電力制御システム Phase1.2ケーブル	177,520
カンボジア病院 発電機室	525,279
カンボジア病院 女子寮屋上 断熱材設置工事	126,683
カンボジア病院 宿舎No.2 排気ダクト設置工事	24,860
カンボジア病院 病室改造工事	496,693
カンボジア病院 洗濯場改造工事	412,773
カンボジア病院 トイレ改造工事 Phase2	2,116,182
DT図書館 フローリング内装改造費	203,437
発電機 配電施設 ミャンマー専門医	270,099
カンボジア病院 AVR発電機 3P 400KVA	1,588,725
カンボジア病院 レントゲン室 内装工事	3,736,060
電機工事 大村建設 カンボジア病院	140,505
C新病院 Fujiエレベーター	23,731,541
C新病院 変圧器 1000kVA Indoor	12,064,138
C新病院 電気工事 E&C	153,343,801
空調設備 カンボジア新病院	144,521,783
医療ガス設備工事 カンボジア新病院	11,772,566
排水管工事 カンボジア新病院	827,270
フードセンターエアコン配管工事 滅菌配管再工事 カンボジア新	3,602,141
安全キャビネット排気仕様変更工事 カンボジア新病院	637,004
医療ガス設備工事(酸素,空気供給システム,吸引システム,ポンプ	20,982,055
手術室(壁材・シーリングペンダント等の設備)カンボジア新病院	27,725,898
改装工事 カンボジア新病院 外部階段・緊急外来。プレイルーム	288,694
東京事務局 パーティション	1

構築物

カンボジア病院 舗装工事等	339,275
カンボジア病院 浄化槽埋設工事・掘削工事	934,701
カンボジア病院 外来待合室前 舗装工事	154,978
カンボジア病院 貯水タンク4台設置工事	315,429
カンボジア小児病棟前 コンクリート道路工事	156,775
DREAM Train 太陽光発電システム装置	585,005
DREAM Train フェンス (図書館裏から事務所裏)	171,225
DREAM Train フェンス (事務所裏から女子棟裏)	65,262
DREAM Train フェンス (フットボール場)	171,310
カンボジア病院 スタッフハウス 給水タンク	205,885
カンボジア病院 発電機 Phase1.2 停電時使用	2,439,435
カンボジア病院 駐車場工事	103,445
DREAM Train 貯水タンク 図書館設置	106,093
カンボジア病院 貯水タンク5,000L	62,433
DREAM Train フェンス (隣接した別の養育施設との間)	163,421
カンボジア病院 排水管の設置(病院からの排水)	166,600
カンボジア病院 排水管の設置(病院Phase1前)	179,362
カンボジア病院 phase1 舗装道路	661,076
カンボジア病院 浄水器 パイプ追加設置工事 behind phase2	95,332
カンボジア病院 浄水器 behind phase2	391,903
C新病院 寄付者プレート	699,166
C新病院 公園遊具	1,993,991

新カンボジア病院Pjt 駐車場	6,972,303		
新カンボジア病院 円形庭園の遊び場+植栽(47M)	401,731		
車輛運搬具			
車両 14台	12,571,687		
工具器具備品			
医療器具等	565,042,658		
土地			
ミャンマー	406,029		
建設仮勘定			
カンボジア病院	11,120,543		
トリームトレイン新棟	24,471,915		
有形固定資産計	2,276,043,829		
(2)無形固定資産			
借地権			
ミャンマー土地賃借権	15,708,758		
無形固定資産計	15,708,758		
(3)投資その他の資産			
投資有価証券			
(株)グロスX社	30,000,000		
敷金			
東京事務所	354,200		
カンボジア事務所	748,902		
カンボジア病院 宿舍	676,080		
カンボジア病院 宿舍	267,096		
ラオス事務所	88,280		
ミャンマー診療所	106,741		
カンボジアACMC 宿舍A	205,688		
カンボジアACMC 宿舍B	205,688		
カンボジアACMC 宿舍C	203,619		
台東区駒形 宿舍	190,000		
三井不動産レジデンシャルリース(株)	116,000		
長期前払費用			
東京事務所・更新料等	423,712		
投資その他の資産計	33,586,006		
固定資産合計		2,325,338,593	
資産合計			3,497,778,343
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
給与・医療支援活動に係る費用等	39,087,630		
前受金			
長期研修参加費	0		
預り金			
源泉所得税・住民税等	790,108		
未払法人税等			
2025年度法人税住民税事業税等	151,000		
流動負債合計		40,028,738	
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	
負債合計			40,028,738
正味財産			3,457,749,605

監事監査報告書

私は、特定非営利活動法人 ジャパンハートの 2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までの第 18 期事業年度の監査を実施しました。

事業報告書、活動計算書、貸借対照表、財産目録はいずれも適法かつ正確であることを認めます。

2026 年 5 月 18 日

特定非営利活動法人 ジャパンハート

監事 大橋 秀夫 

I. 事業計画 / 海外（オペレーショングループ）

海外事業セクション

A. 東京オフィス

1. 海外事業の推進（2026年度計画）

・海外事業全体の中長期計画再策定

海外全拠点を対象とした中長期計画の見直しを継続し、重点分野、人材育成および資金調達に関する方針の具体化を進める。

・カンボジア事業

「ジャパンハート・アジア小児医療センター」の安定的な運営を推進する。医療提供体制の整備を進めるとともに、病院運営における収益基盤の強化（協賛スキーム、VIP病室等）を図る。

関係省庁、企業、医療機関との連携を継続し、事業基盤の強化を進める。

患者数の増加を図るとともに、対象となる子どもたちが医療にアクセスできる体制および取り組みの強化を進める。

・ミャンマー事業

国内情勢を踏まえ、安全確保を最優先とした事業運営を継続する。現地拠点と連携し、医療活動の実施地域および内容の最適化を図るとともに、政府および関係機関との関係維持を継続する。

・ラオス事業

小児医療プロジェクトの具体化に向け、制度設計および運営モデルの確立を進める。現地パートナーとの連携を強化し、実行体制の整備を図る。

・事業管理マネジメント人材の育成

海外事業の安定的な運営に向け、事業管理およびマネジメントを担う人材の育成を強化する。

・ソーシャルインパクトの可視化

海外医療事業（ミャンマー、カンボジア、ラオス）におけるソーシャルインパクトの継続的な測定およびレポートの更新を行う。

2. 海外での資金調達・認知度向上（2026年度計画）

・従業員寄付プラットフォーム（海外）の強化

Benevity等の国際的寄付プラットフォームを活用し、海外企業従業員からの寄付獲得を拡大する。

あわせて、多言語での報告コンテンツの充実を図る。

・国際的認知度の活用

国際的な評価・受賞実績を活用し、グローバルヘルス分野における認知度向上および連携機会の拡大を図る。

・国外資金調達の推進

ASEAN 諸国を中心に、日本国外での資金調達施策を具体化する。寄付型イベントや在外邦人・企業向けのプロモーション活動を拡充する。

・アジア地域における資金調達強化

アジア地域における継続的な資金調達の強化を重点課題として位置づける。プロボノパートナーとの協議を主軸に据え、具体的な施策の設計および実行を加速する。

B. ミャンマーオフィス

1. 医療活動

1) ワッチェ慈善病院を拠点とした医療活動

- ・ワッチェおよびダゴンセイッカンで慈善病院での日本人医療者参加による手術活動を含む医療活動を継続すると共に、ミャンマー人医療者のみで実施できる内容を増やしていく。
- ・ミャンマー人医療スタッフの医療技術および知識の向上を目指し、連携病院等でのトレーニング体制を整備する。
- ・ヨワガン慈善病院の手術室の整備を完了し、定期的な手術活動を実施する。
- ・病院までのアクセスの難しい患者へアプローチするため巡回診療を拡大する。

2) その他の医療活動

- ・小児外科・小児心臓・口唇口蓋裂の専門医療事業を継続する。
- ・国内情勢の悪化によって医療を受けられなくなっている子どもたちを救うため、小児医療の活動拠点を広げる。
- ・小児心臓検診プロジェクトをスタートさせる。

2. ミャンマー医療人育成事業

- ・引き続き新倉会の協力により、奨学生5名（医学生4名・看護学生1名）の支援を行う。

3. 社会福祉関係

1) 養育施設 Dream Train (ドリームトレイン)

- ・新棟建設を含むリニューアルプロジェクトを継続して実施する

国際情勢に伴う物価高騰や現地事情による設備導入コストの増加といった影響を踏まえながら、クラウドファンディング第二弾や法人営業等を通じて資金調達を進め、2026年度内の完了を目指す。

- ・施設運営のさらなる安定化を図る

既存スタッフの役割の可視化、新規採用者向け教育プログラムの整備、校長後任候補の採用または育成を通じて人材基盤を強化する。また、Dream Train の土地権利に関する整理を進める。

2) ミャンマー視覚障がい者自立支援活動

- ・1年間の医療マッサージトレーニングプログラムを継続すると同時に、日本人専門家による医療知識・マッサージ技術そして経営など、幅広い知識を習得する機会をオンラインにて提供する。

3) サイクロン孤児支援活動

- ・2名の子ども の状況に合わせた、学費および医療費の支援を実施する。

C. カンボジアオフィス

1. 医療活動

1) ジャパンハートアジア小児医療センター

2025年11月に新病院オープンをむかえ、今年が開院後の責任を果たすはじめの一年として、医療・人材・資金を持続可能な運営体制へ移行していく。

1-1) 医療オペレーションの安定

a) 病床拡大

- ・開院1年以内(2026年11月)に、病床稼働率70%以上(オープン部分)状況を目指す。
- ・3病棟目(2026年10月)の稼働開始を目指す。

b) 診療拡大

- ・年間外来数3.6万名以上、年間手術件数1,000件以上を目標とする。
- ・夜間外来、および、IPCUの運用開始を目指す。
- ・泌尿器科/形成外科など専門医療の症例拡大、および、小児循環器診療の部分的な運用開始を目指す。

c) 病院/施設・設備機能の充足

- ・安全な食事の提供。
- ・診療体制、患者導線、スタッフ配置に関する基本フローが文書化され、現場で運用されている。
- ・建物および主要医療機器の年間保守・点検計画が策定され、実施されている。
- ・重大な設備トラブルによる診療停止を年間3件以内とする。
- ・「こどもが来なくなる病院」としての取り組みを5項目以上実装する。

d) 社会課題解決

- ・病院との連携と SNS マーケティングなどにもとづき、アプローチしたい患者へのアクセスを強化する。

1-2) 人材基盤の構築

- ・新病院マネージャーを専任化し、中核人材の後継候補または育成対象者を各ポジション1名以上定義することで、人材基盤の安定化を目指す。
- ・日本人専門家雇用のスキームを実装し、価値の最大化をはかる。
- ・主要マネジメントポジションのうち、カンボジア人が担う割合を50%以上とする。
- ・年間離職率が20%以下とする。

2) ジャパンハート医療センター

・アジア小児医療センターが開院したことにより、成人部門の治療に注力していく。
 また、引き続き、モバイルミッションに力を入れ、提携病院のスタッフが自立して、ヘルニアや虫垂炎、陰嚢水腫などの手術が行えるように育成することを目標に活動を継続していく。
 主な活動地は昨年に引き続き、チャムカルー病院、新規開拓したカンポントラベック病院で活動をおこなう。

- ・ジャパンハート医療センターとして、今後目指すべき方向性を明確にし、その実現に向けた具体的な中長期計画を実行できる体制を整備する。

ジャパンハート派遣回数：年8回

オペ活動とスタッフ派遣回数の合計 治療目標件数：40件

2. 医療学生 奨学生支援活動

進学した奨学金生に対しては、適宜フォローアップをしていく。医学生・医師に関しては、ジャパンハートカンボジアが注力している小児科、外科、小児外科、産婦人科について、専門コースへの進級を許可し、専門医を育成する。

3. 新しい広報活動の取り組み

1) カンボジア国内における認知度向上

- ・カンボジア人の広報専任の担当を雇用することができた。現地での広報業務の推進、国内メ

ディアとの関係構築（定期的にリリースを出せる先）に取り組み、国内での認知度向上に努める。

2) ファンドレイジング

2030 年度中に、カンボジア事業費全体をカンボジア国内での寄付金、事業収益でカバーできる体制を目指す。

- ・2026 年も引き続き、年間寄付金総額 500,000 USD 以上を目標とする。
- ・カンボジア国内からの寄付金により年間運営費の 15% 以上をカバーするよう、カンボジア国内での寄付活動に注力する。

ラオスオフィス

1. 医療活動

1) ウドムサイ県病院での甲状腺疾患診療・手術プロジェクト

第 2 フェーズの 1 年間延長の手続きを滞りなく完了する。内分泌外科学会と引き続き連携し、同学会所属の医師による指導協力を得ながら、手術活動を 4 回/年、術前・術後診察の指導を 5 回/年、集中的な内科診療指導を 1 回/年実施する。いずれも、プロジェクト終了後のウドムサイ県病院による自立した診療体制の確立を見据え、残された課題の整理と現地医療チーム主体での実施に重点を置く。

関係団体と協議のうえ第 3 フェーズの構想を固め、計画書の作成と申請手続きの準備を進める。第 3 フェーズは、対象地域の拡大と Lao to Lao（ラオス人からラオス人）の技術移転を前提とする。

2) 個人診療

- ・2 名の患者について、引き続きそれぞれのサポートを行う。
- ・斜顔裂の患者については、毎月電話でのヒアリングを実施し、緊急時には訪問できる体制を整える。
- ・末期がんの患者について、引き続き診察と薬剤購入、必要に応じて入院時のサポートを行う。

3) 小児プロジェクト

- ・九州大学病院と連携し、医師派遣による指導協力を得ながら、手術活動を 3 回以上/年実施する。加えて、子ども病院医療チームへのジャパンハート医師による化学療法指導を 2 回/年、対面またはオンラインでのレクチャー・症例検討を 1 回/月以上実施する。
- ・プロジェクトの安定した運営のため、チームジャパン構想（九州大学病院を窓口とした手術指導医師派遣ネットワークの構築）を実現する。
- ・地方病院との連携体制確立、SNS 発信などの広報活動を通じて、患者の病院へのアクセスを強化する。

2. 広報・ファンドレイジング活動

- ・助成金を含め、4百万円の資金を確保する。
- ・SNSの安定的な運用を維持し、Facebookのフォロワーを300名増加させる。

II. 事業計画/国内（オペレーショングループ）

災害支援・対策セクション

2026年度は、昨年度で構築した支援体制の基盤を、実戦経験をもとにより強化する年としたい。具体的には、実災害時の出動（調査含む）最低2回、訓練6回の参加を目標とする。また、ボランティア登録者に関しては、非医療者向けの研修を充実させる。

1. 組織内部強化

業務委託契約などを活用した研修および訓練企画の運営安定化。

2. 自然災害時緊急救援

1) 人的支援

a. 令和6年能登半島地震

サロン活動、リハビリ訪問、中高生向けBLS研修、健康チェック企画を継続

b. 実災害における出動：地震、豪雨等の実災害時に目標2回の出動

c. 団体内支援体制の強化：団体内バックオフィス体制、避難訓練の継続

d. 外部主催訓練への参加：年6回の訓練参加

2) 物的支援

各拠点（5か所）への備蓄物資と支援物資の実装を継続

3. IER ボランティア登録制度

例年同様に新規登録者の増加と更新率向上を行いつつ、医療分野においては感染症とDVT（深部静脈血栓症）の積極的な技能向上を目指す。

1) 新規登録数

各回実地20名にて開催予定

・第17回研修：2026年7月11日（土）～12日（日）に東京会場で開催予定

・第18回研修：2027年1-2月開催予定

2) 既存登録者ステップアップ研修

医療従事者向け、ロジスティクス向けとして各年1～2回（計4回）実施予定

・医療ステップアップ研修：2026年6月、同8月頃開催予定

・ロジスティクスステップアップ研修：2026年開催予定

3) 海外研修

2026年度実施回は①4月25日～②5月5日～で開催予定

4) 非医療職向け出張研修

佐賀県（2回）、および高知県（1回）にて非医療職を対象とした防災研修を実施予定

4. 国内外ネットワーク作りと強化

1) 平時の体制構築として、有事の際の協働先の拡大を予定。

a. 自治体： 三重県、福島県との調整を進める

b. 企業： 有事の協働・支援企業との連携を強化する

2) 学会発表

a. 2026年10月災害看護学会での発表とブース出展を予定

b. 2027年3月日本災害医学会での発表とブース出展を予定

5. 各地拠点

富山、東京、大阪、岡山、佐賀、郡山の各拠点で備蓄と出動用品実装などの強化を実施予定

スマイルスマイルプロジェクトセクション

専門性に基づいたケアが提供できるチーム力を活かし、より質の高い支援を届ける。さらに、小児がんの子どもと家族の笑顔の時間を質の高いケアで支える連携強化に取り組む。

1. 子どもと家族へのケアリング実践

安心安全な医療提供を基盤に支援者と協働し子どもの笑顔をつくる。

1) 問い合わせ数 150 件

2) 個別企画実施件数目標 50 件

3) 招待企画実施件数目標 10 件

2. 事業の価値向上と連携拡大

遊戯施設、宿泊施設等の医療的ケア児の受け入れと小児緩和ケアへの理解不足、小児ならではの困難感からくる課題がある。外出時の医療連携強化とともに、社会全体の理解が得られるよう、施設側の受け入れ困難を解決するための課題抽出や理解するための機会の検討に取り組む。また、緩和ケア＝終末期医療という概念が根強く、また疾患や予後についてのインフォームドアセントがされていないことも少なくないため、病院医療者がプロジェクトを勧めにくい現状がある。信頼関係をつくり顔の見える関係強化に取り組む。

1) SSP サポーター300名に増員する

2) SSP 活動の連携病院を 100 施設に拡大する

- 3) 新規支援企業3社獲得する。
- 4) 活動認知向上、医療支援成果を可視化する広報資料を整備する
- 5) 事業中長期計画の策定

Ⅲ. マーケティンググループ（広報/ファンドレイジング）

1. 広報活動

テーマ：共感を起点とした持続的な認知拡大とブランド浸透

- ・見せ方・表現の統一によるブランドの強化
- ・報道露出の質向上（単発→深掘り・継続案件へ）
- ・メディアリレーションの拡大（大型露出の獲得）
- ・テーマ別動画制作によるコンテンツ強化
- ・オウンドメディアのバリエーション拡充

2. ファンドレイジング

テーマ：共感を起点とした支援拡大と収益基盤の安定化

【個人向け施策】

- ・季節キャンペーンの実施
- ・初回寄付→再寄付→マンスリー化の導線設計
- ・マンスリー新規獲得強化（DM・講演会・特典設計）
- ・支援者セグメント再定義および施策最適化
- ・支援者のセグメント別による調査

【法人向け施策】

- ・Salesforce 整備・指標統一による営業体制の高度化
- ・寄付後体験設計（御礼・レポート等）の強化
- ・既存支援企業のロイヤリティ向上・単価向上
- ・「こころの花束」をプロジェクト化し、販路拡大

【共通】

- ・本体 HP の改修
- ・LP 改善・広告運用・コンテンツ刷新による獲得強化
- ・各施策の横断的な運用体制構築
- ・年間イベント（報告会・周年等）の戦略活用

カスタマーリレーション

メインテーマ：支援者との継続的な関係を強化し、マンスリーサポーターの安定的な成長を実現する

1. マンスリーサポーターの継続率改善

- a. 年間退会率：12.0%以下
- b. 退会防止施策の実行（支援額の見直し等、継続しやすい仕組みの整備）
- c. 2025年度の調査から示唆された「続けやすさ・習慣化」の要因を施策に反映

2. 継続支援者との関係性の強化

- a. 月1回以上の接点の確保（活動報告・お礼メール等）
- b. 支援者の声の継続的な収集（アンケート・退会理由の把握）

IV. アドミニストレーショングループ（管理・組織・人材・経理）

ヒューマンリソース（人事・採用・労務）

1. 採用活動

- ・採用計画を四半期単位で策定・運用し、達成率80～85%を維持していく。職種および優先順位に基づいた採用活動へ転換し、採用数に加えて「必要ポジションの充足」を重視する。
- ・採用活動におけるボトルネックに対しての施策を継続的に実行する。
 - 採用フローの見直しおよび改善施策のPDCAを回す
 - 職種別の採用勝ちパターンを明確化し、リソース配分を最適化する
- ・カジュアル面談等を活用し、採用パイプラインの維持・強化を図る。
- ・新卒採用活動を継続するとともに、既存新卒職員のフォローおよび育成体制の改善を行う。

2. 人事・組織

- ・新評価制度を年間サイクルで運用し、全対象者の評価実施および確定までを完遂する。
- ・評価運用を通じて課題を整理し、次年度以降の制度改善へ接続する。
- ・評価制度と連動した教育体系の設計および試行を行う。
- ・人材育成におけるHRと現場の役割分担を明確化する。
- ・部署主体で育成を行うための共通フォーマットを整備し、属人的な育成からの脱却を図る。

管理（組織・総務）

- ・ITセキュリティ対策を導入し、運用を開始する。
- ・リスク管理フレームワークを構築し、組織全体での運用を開始する。
⇒ 重大インシデントを未然に防ぐための運用体制の整備を進める。
- ・拠点ごとの調達・契約・支払ルールを整理し、内部統制の標準化を進める。

経理・財務

- ・アウトソース前提の経理体制を確立し、安定的な運用を実現する。
- ・月次および年次決算を安定的に運用する。
- ・資金管理体制を維持し、適切な資金流動性を確保する。
- ・中長期資金計画の見直しおよび管理を行う。
- ・経理業務のDX化およびペーパーレス化を推進し、業務効率化を図る。

メディカルヒューマンリソース（医療人材採用・育成、離島・へき地医療支援）

1. メディカルチーム

1) 医療人材の安定的な確保

昨年度に引き続き、現地では多職種のニーズが高いことから、通年で途切れない医療体制の構築に向け、各職種の母集団拡大および人材供給パイプラインの強化に取り組む。あわせて、外部イベントへのOGOB登壇や、説明会・活動報告の内容および運用の改善を継続しながら関心層との接点を創出し、個別相談を活用することで応募への転換率向上を図る。

2) 現地ニーズに応じた人材の選定

アジア小児医療センターの開設に伴い、医療の高度化や現地医療者の成長を背景に、日本人医療者に求められる役割も変化している。現地ニーズに即した人材確保に向け、現地との連携強化および内部でのすり合わせを行うとともに、各種体制について柔軟に見直す。

3) ボランティア事業

現地ニーズの変化に応じ、短期医療ボランティアの受け入れ内容および運用の見直しを適宜行う。受け入れ側のニーズと参加者の満足度の両立を図りながら、適切な職種・役割での受け入れを推進する。

2. RIKAJob（離島・へき地医療支援）

1) 紹介人数の増加

10月頃から2月にかけて応募者が減る問題が発生するため、通年を通して一定数の紹介が行えるよう人材確保の施策に取り組む。毎月の説明会開催、個別相談の随時対応は引き続き行い、体験レポートなどの情報発信の方法や内容などを振り返り・改善を行う。また、問い合わせいただいた方々とのつながりの対応方法も見直しながら、「RIKAjobを選択して入職する」というフローを形成する。

2) RIKAJob のブランド化

2025 年度に引き続きブランド化を図る。

SNS 有料広告の有効的な活用となるよう引き続き検証しながら活用しつつ、イベントへの出展などで露出を増やし集客を図る。と同時に、問い合わせ者との関係性の構築、紹介先の医療機関との連携強化を行い、RIKAjob に連絡をした時点からその先のキャリアまで信頼できる場所としての事業ブランド化を目指す。

3) 入職者フォロー

地域医療の大変さを実感した直後の精神面サポートを引き続き実行し、契約延長や正規職員への検討へつなげる。入職直後のみのフォローアップだけだったのを、長期勤務の方は 3～4 ヶ月に 1 回、契約の方は契約満了 2 か月前などに設定し実施する。海外ボランティアの参加者（メディカルチーム）に関しては、入職直後、渡航前に実施し、日本帰国後の相談なども実施できるように相談体制を整える。

第4号議案 2026年度 活動予算書 (案)

2026年4月1日から2027年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額(税込)	前年度決算額 (税込)
経常収益		
受取会費	900,000	16,583,378
受取寄附金	1,264,000,000	1,180,813,179
受取助成金等	3,600,000	110,734,512
事業収益	12,456,000	23,378,887
その他収益	0	43,396,631
当期経常収益合計 A	1,280,956,000	1,374,906,587
経常費用		
【事業費】	1,305,456,023	1,223,511,261
人件費	531,458,491	387,819,173
顧問・アドバイザー料	8,150,000	1,262,951
業務委託費	46,524,873	27,991,056
旅費交通費	47,415,113	50,379,042
広告宣伝費	28,368,260	40,358,508
医療器具・備品費	14,685,000	76,692,160
医療支援費	0	0
医療資材費	29,842,328	31,506,312
医薬品	32,090,913	29,882,188
検査費	14,522,522	12,873,459
患者物品購入費	1,993,091	215,510
消耗品費	52,719,574	58,177,835
寄付受贈	0	0
学業支援費	16,262,082	13,142,570
子ども支援費	10,000,000	4,918,224
食材費	20,319,846	28,402,292
研修費	657,500	302,985
人材派遣費	2,520,000	3,654,097
医療者育成費	5,000,000	0
寄付金支出	0	0
水道光熱費	37,243,254	9,077,250
地代・家賃	13,566,000	15,448,142
海外ステージツアー開催費	1,092,440	0
セミナー・イベント開催費	2,234,400	2,214,744
通信運搬費	6,897,139	13,575,899

リース料	1,382,040	1,382,040
賃借料	947,600	1,753,222
車両費	6,365,346	6,105,770
工事・修繕費	5,151,805	8,521,581
保険料	6,070,579	4,424,239
会議費	2,855,042	1,274,404
接待交際費	678,601	512,838
諸謝金	6,310,040	1,020,000
諸会費	513,350	797,930
新聞図書費	76,864	20,797
印刷製本費	33,594,674	10,189,632
雑費	365,768	20,160
支払手数料	16,246,488	23,049,767
租税公課	1,200,000	1,152,252
為替差損	0	0
期首書籍	0	614,985
当期書籍仕入高	60,000	86,240
期末書籍	0	-615,855
他勘定振替	0	-1,600
当期商品仕入高	75,000	20,850
書籍等販売原価	0	104,620
減価償却費	300,000,000	355,287,612
【管理費】	39,873,908	46,047,134
人件費	15,029,232	12,262,392
業務委託費	9,099,000	7,256,266
通信運搬費	1,998,186	1,229,864
諸謝金	0	0
水道光熱費	537,000	507,959
旅費交通費	400,000	384,859
研修費	10,000	0
会議費	15,000	15,150
接待交際費	0	0
消耗品費	600,000	389,290
印刷製本費	792,000	720,924
工事・修繕費	0	31,900
賃借料	0	417,975
地代・家賃	8,252,780	7,996,568
租税公課	100,000	10,590
諸会費	0	385,900

リース料	396,000	396,000
支払手数料	2,242,440	13,382,063
新聞図書費	0	0
車両費	0	0
保険料	302,270	553,160
慶弔費	0	0
広告宣伝費	0	0
雑費	100,000	99,025
減価償却費	0	0
為替差損	0	0
雑損失	0	7,249
当期経常支出合計 B	1,345,329,931	1,269,558,395
当期経常増減額 A-B	-64,373,931	105,348,192

第5号議案

役員改選

新役員候補者

(敬称略)

理事（4名）

理事 吉岡 春菜（よしおか はるな）（重任）

理事 神白 麻衣子（こうじろ まいこ）（重任）

理事 西井 敏恭（にしい としやす）（重任）

理事 永田 暁彦（ながた あきひこ）（重任）

監事（1名）

監事 大橋 秀夫（おおはし ひでお）（重任）